【読み物資料】
大昔の越谷

大昔の越谷へ、タイムスリップしてみよう！

越谷には、いつごろから人が住んでいたのかな？

レイクタウン駅付近

〈想像図〉

レイクタウンで大昔の遺跡が発見されたそうだよ。

越谷レイクタウン駅北口前に、見田方遺跡公園があります。このあたりに古墳時代後期から奈良時代（6世紀後半・今から1500年ほど前）にかけての遺跡が1966年から1967年にかけて発見されました。

ここは、見田方遺跡の発くつ現場なんだって。

どれくらいの人が住んでいたのかな。

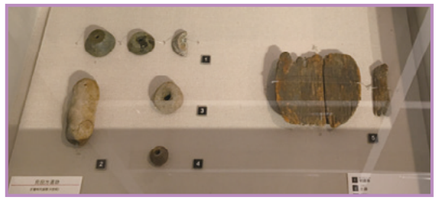
遺跡からは、住居のあとやさまざまな出土品が発見されました。住居は竪穴住居といわれています。約3メートル四方の面積にわたる土地を、深さおよそ30メートルまで土をほりぬき、その上に直に草屋根を乗せた家々です。

当時の日本の人口は、およそ60万人だったそうです。（歴史学者の説による）

出土品とは、遺跡から出てきた物のことだよ。

〈想像図〉

出土品などから考えると、当時の人々は、稲作農耕のかたわら、魚や動物をとったり、あるいは身につける服をつくったり、くだものを植えたりと自給自足の生活を送っていたようです。



この遺跡は、何回もの洪水で消えてしまい、現代になってようやく発見されました。みなさんのまわりにも、まだ発見されていない遺跡があるかもしれませんよ。

主な出土品

- 土器……食物の保存用、炊事用、食器
- 紡錘車……服をつくる
- 管玉・勾玉……装飾品として身につける
- 鏡や勾玉の模造品…お祭りに使う
- もみ……稲作に使われていたもの
- 炉・かまど……食物の煮炊きなどに使った

大昔に、いろいろな道具がつくられていたんだね。
わたしも、遺跡公園や旧東方村中村家住宅に行って本物を見てみたいな。

２つの中村家住宅

越谷市内には、歴史を伝える２つの中村家住宅があります。くらべてみましょう。

	旧東方村中村家住宅	大間野町旧中村家住宅
	いちく前の かやぶきやね	
できたころ	安元元年（1772年） ※越谷にのこっているたて物で一番古い。	大正３年（1914年）
特ちょう	・もともとは、かやぶきの屋根だった。（今は、金ぞくのいたぶき） ・「やくいもん」という門がある。 ・大相模小学校のもとになる。倍根学校をつくった中村倍根がこの家のあるじだった。 ・「てんじ室」があり、見田方遺跡の出土品もてんじしている。	・土の蔵、石の蔵、やしき林などがのこっている。「ながやもん」という大きな門がある。 ・もとの大間野村の名主だった中村氏の家だった。 ・今は昔の生活道具や農具などをてんじしている。

昔の越谷　あれこれ

別冊：【読み物資料】昔をつたえるもの

１.江戸時代の越谷

６年生の社会科で学習する徳川家康という人物がいます。将軍になり1603年に江戸（今の東京）に、幕府（将軍が政治を行うところ）を開きました。家康は、鳥のタカを使ったかりが好きで、かりをするために、何度も越谷を訪れています。たとえば「御殿町」や「城ノ上」という地名は、家康の御殿があったからと言われています。

市内の大聖寺や浄山寺は徳川家康により寺の土地がきぞうされていて、「将軍代々の朱印状」がのこされています。(越谷市の文化財)

２.越谷の偉人

越谷出身の偉人を、ここでは５名しょうかいします。

会田七左衛門政重（1580～1642）

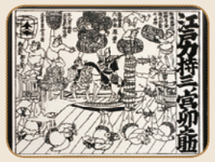
出羽地区の新田開発に力をつくした。今の七左町のゆらいになる人物である。

越谷吾山（1717～1787）

日本ではじめて方言の研究をした。物類称呼という方言の辞典をつくった。越谷新町（今の越谷１丁目～３丁目あたり）の出身。

三ノ宮卯之助（1807？～1854）

重い物を持ち上げる見せものをしながら全国を回っていた。日本一の力持ちと言われた。卯之助が持ち上げたという「力石」が各地にのこされている。三野宮村出身。



高橋正義（1898～1961）

生活に苦しんでいる人のため、おたがいに助け合う会をつくるのにかかわった。

（全国ではじめての「国民健康保険」）

齋藤豊作（1880～1951）

画家。強い色さいと、点びょう風のタッチが注目されていた。西方村の出身。